

現在、脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の総称）になる患者さんの数は150万人と言われており、昭和60年に比べて約1.5倍増加しています。しかし、年々、脳卒中で亡くなる方は減ってきており、脳卒中後の医療の進歩で助かるようになってきたこととなります。30年間には脳梗塞よりも脳出血が多かったのですが、高血圧治療の徹底のおかげで、脳出血は激減しました。でも脳卒中総数は激増しており、脳梗塞が全体の7割に及ぶほど激増しています。死亡数は減ってきておりますが、要介護（寝たきりになった方も含む）になられた原因の圧倒的1位は脳卒中（27.7%）で、2位の高齢による衰弱の方は16.1%となっており、2倍近い開きがあります。高齢者医療費（65歳以上）では、脳卒中医療費が1.38兆円になり、癌（悪性新生物）の医療費1.31兆円を上回っているのが現実です。脳卒中医療費には相当な金額が投じられていることがお分かりになると思います。しかしながら、その後の介護にかかるための費用も莫大であり、脳卒中後の医療の進歩だけでは我が国の医療保険、介護保険の財政状態は悪化をたどっていくこととなります。そして、患者本人、家族への経済的な負担は避けては通れなくなることは皆さんもお気づきになってきていることでしょう。家族はただでさえ、肉体的に、精神的に、経済的に大変な思いを背負いながら介護に当たっていることが現状なのです。

では今後、どのようにしていくことが重要かと申しますと、アメリカのように病気にならないように国民に対して指導していくことです。アメリカでは、医療費も高く、保険料も高いので、国民の1/4以上が無保険と言われており、当然医療機関へかかることが大変なのです。そのような意識から、病気にならないために食材に対して配慮する生活を国民自身が気をつけてきているのです。私たちが想像するアメリカ人は、ファーストフードや添加物ばかりを摂取している感覚です。しかし現実とは異なります。知らないのは私たちだけなのかも知れません。肥満者に対しても会社は退職させたり、あるいはある州では学校内での炭酸飲料水の販売を禁止する法律が出来たりと、皆さんが知るところでも確実にアメリカの予防医療は進歩してきているのです。脳卒中になっても助かる医療、それは日本でも進歩して来ましたが、でも残念ながら脳卒中を予防する医療は全く進歩しておりません。予防とは健康診断で病気を見つけることではなく、生活そのものを見直していくことが第一歩なのです。お身内が突然脳卒中になられたら、皆さんの生活も一変してしまいます。そうならないようにするためにもご家族皆さんで身体に入れるものの素材について話し合っていくことはとても大切なことです。